

第3回定例道議会

チカラ合わせて

命と地域を守るため 東奔西走！

安保関連法案の審議が参院で山場を迎える中、第3回定例道議会が9月8日に開会しました。真下議員団長は3人の道議とともに「法案の成立を許さない」と論陣を張り、現地調査を重ねた地域の願いの実現に全力を傾注しています。

期待ひしひし

開会日の8日朝、道庁前で第3回定例道議会に臨む決意を訴えました。約62億円の補正予算案と、道の総合計画、地方創生、新教育大綱、子どももの貧困などについて、高橋はるみ知事の姿勢を問い、戦後



70年の歴史認識と多数の道民が反対する戦争法案への態度をただしていくと4議員が決意を訴えました。握手を求められた真下議員は「期待の大きさをひしひしと感じます」とのべました。

現場の声を議会へ

道議団は、この間、過疎や地方交通の厳しい現状を直接調査するため、ロシア海域でのサケマス流し網禁止の道東への影響や、日本海沿岸漁業のとりくみなどを調査してきました。また、地域医療構想による病院のヘッド削減の影

知事、国会に丸投げ答弁

自民・公明「徹底審議求める」意見書に反対

11日、代表質問にたった宮川潤議員は、戦争法案に反対する国民の声を紹介し、審議を尽くし、強行採決しないよう主張しました。高橋はるみ知事は「審議が尽くされただかどうかは国会が決める」と答え、国民の声を無視する安倍政権に同調しました。

戦争法強行に抗議!!!



宮川議員の代表質問に高橋知事が、審議が尽くされたかどうかは「国会が決める」と答弁すると、本会議場には驚きのどよめきが走りました。これまで国民と国会の場で慎重な審議を尽くすことを求めてきた知事答弁を転換し、安倍首相に同調する姿勢を表明したのです。

6割の国民が今国会での成立を望まず、8割が政府の説明不足と

響や、1月から休止中の日高線の再開、JR駅のバリアフリー化を求める声などを直接聞いて、質問に反映させてきました。また、建設労働者の賃金の引き上げなど、これまでの課題を宮川議員が35分の代表質問、菊地議員が20分の一般質問に込めて要求実現へ全力を傾注してきています。傍聴者が議場に駆けつけ、励ましをいただいています。後半は、9月25日からの予算特別委員会で佐野弘美議員と真下議員が質問します。

お知らせ

本会議場はのりこえにくい方のためフラットループのエリアがあります。補聴器も貸し出ししていますので、ご利用ください。

いう世論調査の動向は、憲法違反の法律を認めないという国民の硬い意志の現れです。全道でも強行採決に反対する抗議デモが連日のように各地で行われました。真下議員らは札幌での総がかり行動に連日参加、旭川市内でも街頭から訴えてきました。道議会は15日、民主党が「安保法制の徹底審議を求める」意見書を本会議に提案しました。共産・民主・結志が賛成しましたが、自民・公明は討論せず反対。賛成少数で否決されました。



# 現場の声で＝向き対応引きだす！

## 雨漏り放置 全道に十九校

## 「現場把握し早急に対応」、中長期対策も

### 3年前と同じ場所にバケツ

真下議員と佐野議員は、8月26日、関係者から施設の改善要望が寄せられている帯広市の帯広養護学校を訪ね、校長先生たちからお話を伺いました。

真下議員は2012年に同校を視察し、道議会で質問したことを契機に、高等部は増改築され、厨房（ちゅうぼう）の拡張などが実施されました。しかし、生徒数が予想を超えて現状49学級まで急増したため、増改築後も教室や給食室、職員室の整備が追いついていません。増改築された高等部の校舎は明るく、スペースも確保されましたが、小学部・中学部は老朽化したまま。雨漏りの箇所は寄



3年前と同じ場所に雨漏りバケツ

宿舎を含めて10カ所近くもあり、廊下に雨漏り受けのバケツを置いてしのいでいる状況です。

体温調節機能が低い重度障害の児童・生徒のために小型の移

動式エアコンが設置されていますが、隙間風の影響を受け十分機能しているとはいえません

### 臨時・応急的対策早急に

真下議員は「3年前と同じ場所に雨漏りを受けるバケツがあった」と指摘。

全道19校から雨漏り修繕の要望が出ているにもかかわらず修繕されていない実態もわかり、道教委の対応の遅さは際立っているといえます。

佐野議員は7日の文教委員会で質問し、特別支援教育担当局長は「改善を図るべき課題だ。検討したい」と答弁しました。

宮川議員の代表質問に柴田達夫道教育長は「現状を把握し、臨時・応急的な対策を早急に検討する」「教室不足の解消に係る方策など対応策について検討する」と表明しました。

## 日本海漁業振興、600キロ走破の調査

5年間で生産量が半減した後志・桧山地区をモデルに、日本海漁業の振興方策がとられています。水産林務委員会副委員長の真下議員と、菊地議員が、沿岸600キロを走行して、現地調査、関係者との意見交換を行いました。

### 魚種・漁法でリスク分散

ひやま漁協では「助宗タラの輸送技術がよくなり、韓国では高値で販売できていたが、東電の原発事故による風評被害、韓国の輸入規制で今も大きな影響が続いている。

海面が狭いため、ナマコのように付加価値の高いものでカバーしなければならぬ」と、養殖にとりくんだいきさつを伺いました。



熊石アワビセンター

ナマコの採卵から種苗にとりくむ着床用のカゴは、代用品を活用するなど費用節約の工夫をしています。漁協の組合員は「漁業者に配当金を出し自立できるようにしていきたい。加工施設ができれば、付加価値は一層高まる」と意気込みを語ってくれました。

効率だけを追うのではなく、漁船漁業による助宗タラの漁獲減少を養殖で補い、多魚種でリスクを分散、全員参加で手間をかける漁業をめざしています。しかし、こうした努力に水を差すのが「密漁」です。打撃は深刻です。密漁監視の強化、監

### アワビ養殖も軌道に

北海道栽培漁業公社が運営する八雲町熊石アワビセンターでは、小さなアワビの種苗を30ミリの育成施設で50ミリまで、65ミリ以上の成貝まで、さらに沖合の養殖施設で育成しています。大きさによって設備が違いため、育成段階に応じた施設は効率がいいこととなります。

陸上飼育の水温上昇のために温泉水を活用していますが、昨年は急な低水温に対応しきれず、30万個がダメになったという苦い経験もあります。それでも熊石アワビセンターでは通常は100万個の種苗提供体制が整い軌道にのってきています。